**丸山瑛一さまの「日米戦争を起こしたのは誰か」が発端となった意見交換を興味深く拝読いたしました。上田高校の同窓生が胸襟を開いて議論するお姿に、驚きと自由闊達な校風を感じました。**

**私にはその議論に加わるだけの力量がないのですが、日本人にあの戦争の総括ができていないことが、戦後がまだ終わっていないことに繋がっていると感じています。特に教育現場では、学習指導要領に示された入学式卒業式の国旗国歌の実施の場面で、教員と校長の「対立の構図」がいやでも明確になり、それが学校運営に影を落としているのは、きっと今も変わっていないように思います。**

**「対立の構図」が生じて喜ぶのは誰でしょう。私には分かりません。校長はこの問題で苦悩します。でもこの問題から逃げないで、苦悩を乗り越え、試百難で正論を貫くことによって学校改革は成し遂げられるとは、私の経験です。**

**上田高校の場合、私には深志の経験があり、職員も私を理解してくれたのか、国歌斉唱の正常化の場面の対立には、それほど苦しい思いはしませんでした。深志では「対立の構図」が先鋭化して、在職中は職員から「不信任校長」の烙印を押され続けていました。ところが、上田に来たら同じことをやっているのに、職員の信任率が何と8割に達して、組合の幹部から校長先生県下一の信任率ですよと言われて驚きました。**

**そこに深志と上田の校風の違いがあったのかもしれません。上田高校の明るかったのです。**

**日米戦争を起こしたのは誰か、にあまり関係のないお話となってしまいました。お許しください。**